

御殿場

十字の園

(題字 鈴木生二)

2008
No.184号

12

発行/総合福祉施設
御殿場十字の園
施設長 上野貢一

〒412-0023 御殿場市深沢1465の1
TEL 0550-83-1999
FAX 0550-82-5189
<http://www.jyuji.ne.jp>
e-mail : info@g.jyuji.or.jp

印刷/岳麓印刷株式会社

(聖句)喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12; 15)



クリスマスツリーにリンゴが…。

イルド

理事長 平井 章

奇蹟のりんごの話。「人工的にりんごを育てるのではなく、りんごが本来持っている生命力を引き出し、育ちやすい環境を整える。主人公はりんごです。」は、りんごを栽培した木村秋則さんの言葉。

「プロフェッショナル仕事の流儀」の番組で放映されました。

そのビデオを映して熱く語るのは韓国長城にある一心共同体のナム・サンド牧師です。海外からの安い輸入農産物により、韓国でも農業経営の危機的な状況が迫りました。木村さんを師と仰ぐナム牧師は、生産者には自然農法を指導し、消費につながる物流システムを考案して地域を活性化させました。韓国ペクウン教会のキリスト教社会事業の話です。

農薬も肥料も使わない栽培を確立するまでには長く壮絶な格闘がありました。栽培に挑戦し八年目にやっと奇蹟が起きました。収入が全く無くなり、出稼ぎや畑の雑草で食費を切りつめた極貧生活だったといえます。

介護の文化の創造

御殿場十字の園 施設長 上野 貢 一

毎年、特別養護老人ホームの方では、家族懇談会をやっています。今年で、三回目になります。今年は、十一月二十九日(土)、午前十時から午後二時までの予定でおこないました。始めに一時間ほど、施設が今取り組んでいる「オンブズマン、第三者評価、身体拘束廃止」について話をさせていただきました。昼食はユニットごとに食べていただき、その後直接介護にたずさわっている職員との懇談の時を持ちました。今年は、三十家族三十七人、ほぼ三割の参加がありました。懇談の時、ある一人の家族の方が、この法人の理念のように、夕日が沈むとき輝きがあるように感じる。「夕暮れになっても光がある」の通りだ。お袋が、子供に帰って、お袋や、親父のこと、爺さんたちのことを話す時、そっと聞いて於いて欲しい。それで、本人は、満足をして

しているのだから。私たちもその人の人生に寄り添いながら、その人らしく暮らしていただくことを願っています。五木寛之が、「遊行の門」で書かれてるように、子供に還る時なのでしょう。私などは、尋常小学校の先生だと思ってくださいているように、今日学校は、どうぞらとニコニコして聞かれますと、焦ってしまい、先生になりきるのに苦慮をしています。この苦慮は、喜びがあり、楽しさがあります。人間の一生の最後のステージは、平安であって欲しいと願うのです。

御殿場に、虎屋という和菓子のメーカーがありますが、東山に、お菓子を創る過程を見せ、庭を見ながら食べる「とらや工房」を創りました。「虎屋ブランド」という本の中に創った経緯が書かれてあります。虎屋の歴史は、四百八十年遡ります。五百年前という

イエス様の手

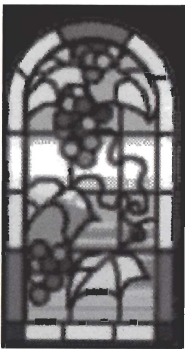
御殿場教会牧師 中島 善子

イエス様の所に重い皮膚病を患った人が近づいてきました。古い聖書には「らい病」と書いてあります。ハンセン病のことです。重い皮膚病のすべてがハンセン病とは限りませんが、非常に治りにくく、そして伝染する病気だったことには変わりありません。

旧約聖書を見ますと、この病気にかかると、社会から隔離されます。そして外を歩く時には「私は汚れた者です」と大声で叫ばなくてはなりません。誰も患者に触れないためです。悲しく残酷な話です。その病人がイエス様の所に来て、ひれ伏して言いました。

「主よ、御心ならば私を清くすることがおできになります。」

イエス様が「よろしい、清くなれ」と答え、手を差し伸べて彼の体に触れると、たち



まち彼の体はきれいになりました。

イエス様は言葉だけで病を癒すことが出来たのに、触れてはならない重い皮膚病患者の体に直接触れて、癒しました。誰も触れようとしなかった汚れた体。汚れがうつるからと、誰も近づこうとしなかった体にイエス様だけが触れました。

最も汚れた所とは、最も痛んでいる所であり、最も大事にされなくてはならないのに、最も見捨てられた所です。そこに、イエス様は手を伸ばし、触れてくださいました。そして手当てをしてくださりました。

十字の園の歴史も振り返れば、誰も触れようとしなかった所、大事なのに社会から見捨てられていた所に、イエス様の手が伸びて、生まれた施設です。

だから毎日の仕事には、イエス様の手が必要です。職員一人一人の手に、イエス様の手が重なっていくことが必要です。

人間の手、人間の力だけでは果たすことが出来ない使命が、十字の園にはあります。イエス様の手として働く使命が、十字の園にはあります。だから職員の方、一人一人は、イエス様の手を担い手です。イエス様に手を重ねていただくことで、十字の園の働き手として、本当の働きが出来る一人一人です。

そのために、皆さんの心に刻んで欲しいことは、礼拝を大切にしてくださいと言いうことです。施設の礼拝だけでなく、教会に来ていただき、教会で、皆さんを待っておられるイエス様に、ぜひお会いしていただきたい。そしてイエス様が皆さんに向かって差し出しておられる手を、しっかりと握っていただきたいと言うことです。

礼拝は形だけのパフォーマンスではないし、十字架は飾りではありません。十字の園をこの世に送り出した神の御心を、どうか見失わないでいただきたいと心から願っています。

(十字の園大会開会礼拝より)



と戦国時代です。その戦国時代から看板を大事にしながらいかに商いをおこなって来たというのです。その目指すものとして、「お菓子文化」を創造していくのだという気概が書かれてあります。

十字の園という法人が出来て、四十七年です。日本で一番初めに、特別養護老人ホームを創った法人です。その間一筋に介護に関わって来ました。三十七年前、法人二番目の施設として御殿場十字の園

が出来ました。懇談会の中で、家族と日頃介護をおこなっている職員との会話を聞いていて、目指すものは「介護の文化」を創っていくことではないかと感じました。措置の時代と介護保険が始まってからは、介護に対する考え方も、意識も違ってきています。百年、二百年前の介護と、今の介護、これからの百年先の介護は違うでしょう。三十七年という時間の中でも、随分違ってきています。自分のことが自分で出来なくなってきたとき、その人を支えるあり方はどうあるべきなのか。文化としてどう創造していくのか。このことは施設だけでは出来ないでしょう。ご家族、地域も含めて、具体的な実践の中で生まれてくるのでしょうか。聖書の言葉からとった法人の理念「夕暮れになっても光がある」の確認の具体的な実践が、歴史を創り介護の文化を創っていくことなのでしょう。

日中一時支援事業

障害者相談支援事業所 相談支援員 武藤 繁生

先ず、日中一時支援という聞きなれない言葉の説明をいたします。日中一時支援事業の位置づけとしましては、障害者自立支援法による地域生活支援事業（市町村が行う事業）に位置付きます。日中一時支援事業とはご家庭で生活してみえる障害をお持ちの方がご家庭の事情により、日中のみ当園を利用していただくことにより、住み慣れた地域での生活を支援するためのサービスです。ご家族の冠婚葬祭や旅行や休息等の理由により一時的に家庭での介護が困難になった場合にご利用いただくサービスです。突発的な場合にも対応できるサービスになっております。

まいりました。（ここでまた聞きなれない言葉が出てきましたので説明いたします。障害者地域活動支援センターとは日中一時支援事業同様、障害者自立支援法による地域生活支援事業です。）

地域活動支援センターは個別介護計画なるものをたてて送迎、入浴、給食等のサービスを提供をしていくわけですが、日中一時支援事業は緊急・突発なため計画的なサービス提供ではなく一時的な預かりのようなご利用になるわけです。

障害者地域活動支援センターの営業時間は九時四十分～十五時五十分の六時の為に、児童を受け入れた場合など保護者様の突

当施設は平成十二年四月に身体障害者デイサービスセンターを併設事業所として開所し、制度の流れとともに障害者デイサービス障害者地域活動支援センターと移行して

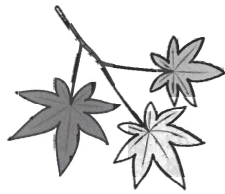
者様の突



発的な勤務時間の都合等で十六時では早いため延長できないかといったお話しをいただいたことがありました。このようなニーズがあるのであれば何とか活動支援センターに抱き合わせた形で運営ができないかというところで市町村に投げかけてみたのです。平成二十年十一月より保護者様からのニーズに答えられるよう環境整備し、早利用は八時三十分の開始とし、延長を最長十七時三十分までご利用可能として日中一時支援事業をスタートさせたのです。当事業所は現在、障害者地域活動支援センター事業と日中一時支援事業の委託を御殿場市・小山町から受け少しでも価値のある時間の提供・利用者様ニーズに答えていけるよう職員一同努力し取り組んでいます。

秋のドライブ外出

～各ユニットごとに行きました。～



ちどり・ほととぎすグループ



ポカポカ秋晴れ空の下、市内のスーパード好きな弁当やお菓子とお茶を買って、芝生の公園でゆったり過ごしました。

ひまわり・あじさいグループ



今年も秋の紅葉ドライブに行ってきました。天気にも恵まれ、最高のドライブ日和となりました。

11月 ひばりグループ



サファリパークでカンガルーと触れ合ってきました。餌をあげたり、一緒に写真を撮りました。

うぐいす・かなりあグループ



「わあ〜！キレイねえ〜!!」紅葉の始まりと共に箱根園に行ってきました。水族館の魚やアザラシのショーに大満足!!

すみれ・すずらんグループ



秋のドライブ外出でお寿司屋さんへ行ってきました。嫌いな玉子を召し上がられたりと皆さん大満足でした。

コスモスグループ



先日、芦ノ湖へ行ってきました。とても寒かったです。木々は紅葉に色づいており、皆さん久々の箱根の外出で楽しんでいただけました。

ケアハウス御殿場アドナイ館 入居者の様子

「紅葉ドライブ」

十一月十二日(水)

今年の「紅葉ドライブ」は何処に行きましょうか。と投げかけたところ、数名の利用者から「久しぶりに三保ダム」の声が上がりました。行ってきました。一台でみんなと一緒にの利用者の声を反映して、今年もマイクロバスを借りました。三保ダムまでの湖畔を歩き、ダム天端より眼下にダ

ム広場公園を望みました。「行列の出来るおそば屋さん!」「あずまや」で昼食をとり、丹沢記念館でお土産を買いました。丹沢湖ビジターセンターで丹沢の動植物の分布展示を見ました。玄倉川橋を渡り、モミジの散歩道を通って、大仏橋を渡り、更に永歳橋(夢のつり橋)を通って、これで丹沢湖を半周致しました。(田内博夫)



〈ボランティア紹介〉

逆デイ「気ままの家」

白倉 たえ子

十字の園の厨房でお世話になっておるときに、逆デイのボランティアのお話をいただきました。利用者さんのお名前やお顔は存じ上げておりましたが、自分にどんなお手伝いが出来るか不安もありました。しかし前々から何らかの形で携わってみたいと思っていましたのでお受けいたしました。

逆デイに使われている家の玄関に、大きく「気ままの家」と書かれています。字の如くここでは、皆さん夕方まで一日のんびり気ままに過ごしていただいています。建物も和風で、畳や障子を見て懐かしそうにされています。そんな雰囲気の中で気持ちも落ちつかれる様で、いろいろなお話をしてくださったり、好きな歌を聞いたりトランプやゲームをしたりとほんとうに楽しそうです。職員の方も「こんなニコニコ顔初めて見まし

た。」とびっくりされることもあります。

時には、近くで畑仕事をされている方から採りたてのとうもろこしやキュウリをいただいたりすることもあり、早々に皮を剥いて茹でたり、キュウリも実を作ったり、そんな時のみなさんは本当にうれしそうな顔をされています。帰りがけに「今日は楽しかったです。またお願いします。」という言葉をいただいて私の方が皆さんから元気をもらっています。

これからも微弱ながらお手伝いをさせていただきたいと思っ
ています。



十字の園大会報告

御殿場十字の園 高橋 直樹

十月二十二日(水)、二十三日

(木)の両日、御殿場高原時之栖において「第十三回十字の園大会」が執り行われました。

第一日目は、基調講演と課題講演の二つの講演が行われ、基調講演として元浜松十字の園介護長の加藤はる先生に「十字の園で大切にしてきたこと、していきたいこと」という演題でお話を伺い、課題講演には米山武義先生(米山歯科クリニック院長)をお迎えし「口は長寿の門」と口が開けば、心も開く」というテーマと、もう一つ「十字の園から始まった口腔ケア」というテーマでお話いただきました。

加藤はる先生は、温故知新の故事に則り十字の園の開設当時のお話に絡めて、今私たちが拠り所として守っていかねければならない事柄を「残したいもの、大切にしていきたいことを考えましょう」とやさしく説いてくださいました。



場十字の園で取り組み実践してきた「口腔ケア」と、二〇一五年から始まる「本格的な超高齢化社会」を見据えた「これ

から」について。さらには「ターミナルケアまでが介護予防である。」というお話をさせていただきました。

二つの講演は、文字通り十字の園の『現在』、『過去』、『未来』を示唆しており、非常に有意義で貴重なお話でありました。

時之栖二日目は施設発表から始まりました。今回テーマに掲げたのは「より質の高いサービスとは」です。昨今の利用者本位の福祉サービス利用制度への転換の声を受けて、質の高いサービスとはいったいどういうことを言うのか。日々どのように取り組んでいるのか。各施設からの発表を

いただきました。

もうひとつ新たな試みとして「第十一回十字の園大会」に発表を行った『御殿場十字の園の介護タクシー』を『経過報告』として取り上げました。講演・事例発表会場入り口で掲示形式での発表を行い、三年目となる『御殿場十字の園介護タクシー事業』の現在の経過、現状の公開発表・報告をさせていただきました。

サービスの質を測定し、その向上を測って行くことは難しいことであろうと思います。私たちが、私たちなりの切磋琢磨の方法の産物として今回の発表があり、Reliability (信頼性)・Assurance (確実性)・Tangibles (有形性)・Empathy (共感性)・Responsiveness (反応性)の向上、利用者との共有こそが『質の高いサービス』であるということを、改めて実践の場から示してくれたいと思います。非常に有意義な大会であったと感じました。



献金下さった方々

敬称は略させていただきます。

9月分

富士社会教育センター、高村せつ子、安藤文知子、小宮山光文、小宮山ふみ、小宮山享、福島正昭、小松保、鈴木頼、岩淵年子、渡辺春野、山崎よし子、藤曲喜雄、澤田龍子、鈴木ふみ、堀井多み子、中川す江子、林正尚

10月分

安藤文知子、麻生邦雄、加藤喜美子、田口峰子、宮内みゆき

11月分

岡本克子、尾崎正夫、稲葉高一、西村正子、富士社会教育センター、中島善子、横山真人、長田喜芳、杉崎清司、内藤明郎、岩田豊寿、安藤文知子

協力ボランティア

9月

みくりや友の会、高橋文夫、杉山和子、厚生年金婦人会、隆生会書道、御殿場市赤十字奉仕団、ミモザの会、市婦連福祉グループ、市野はつ、シヤマム池谷、不二聖心中学生、木洩れ日朗読の会、勝又静江、芹澤菊枝、高村恵子、野菊寮、鈴の会、御殿場教会、琴音会、不二聖心母の会、児童館ゆうゆうクラブ、勝又町子、中里京子、白倉たえ子、井村弘子、太極拳カツマタ、AKI美容室、近岡友子、加藤正代、土屋明子、なでしこ会、しきなみ短歌の会、さわやか部会、高根婦人会OB会、富士社会教育センター、小山高校生

10月

みくりや友の会、玉穂婦人会、不二聖心母の会、厚生年金婦

11月

人部、御殿場市赤十字奉仕団、ミモザの会、鈴の会、AKI美容室、ビューティ山田、木洩れ日朗読の会、東山婦人会、弥生会、野菊寮、市野はつ、杉山和子、芹澤菊枝、勝又静江、隆生会書道、太極拳カツマタ、不二聖心中学生、中村孝信、白倉たえ子、なでしこ会、シヤマム池谷、近岡友子、勝又町子、渡辺弘子、御殿場教会、若葉会、印野はまの会、井村弘子、中里京子、菅原幸和、高村恵子、高橋文夫、加藤正代、土屋明子、富士社会教育センター、高根婦人会OB会、さわやか部会、高根中学生

みくりや友の会、厚生年金婦人会、隆生会書道、御殿場市赤十字奉仕団、鈴の会、ミモザの会、市婦連福祉グループ、市野はつ、木洩れ日朗読の会、隆生会琴、勝又静江、芹澤菊枝、AKI美容室、ビューティ山田、なでしこ会、東山婦人会、深沢民謡クラブ、太極拳カツマタ、富士社会教育センター、不二聖心母の会、しきなみ短歌の会、杉山和子、高

御殿場十字の園 支える会

9月分 19件 158,000円
10月分 5件 130,000円
11月分 12件 442,188円

4月～11月分累計
79件 1,191,666円

ご献金、ご献品心より感謝申し上げます。

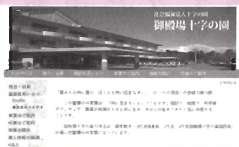
郵便振替口座
00110-9-98996
御殿場十字の園 支える会

ご連絡下されば振替用紙をお送りいたします。

10月29日に御殿場十字の園オフィシャルホームページをリニューアルいたしました。このページにやってくる方は、自分の身近に『介護』に関する疑問、不安、心配がある方々であろうと思います。『介護』『看護』『医療』の分野において、そのサービスを望む方は一人一人違った症状・事情を持っていらっしゃるわけです。その中の『介護』の分野における知識・情報を求める方々への道標として、そして総合福祉施設である私共が網羅している介護サービス概略と窓口・連絡先を提示してあります。

外部のWEBデザイナーに依頼して、最新技術を駆使した斬新的なページ...というわけでは決して無いので、目を見張るような画面は現れませんが、不特定の方々、自分の求める事項に容易くたどり着くことが出来るよう、出来る限りシンプルに。内容については、介護関係にありがちな一人よがりの介護専門用語の羅列・表示を極力排除して、平易な表現に努めたつもりです。

http://www.jyuji.ne.jpにアクセスしていただくか、サーチエンジンで『社会福祉法人十字の園御殿場十字の園』もしくは『御殿場十字の園』と入力してください。(事務所 山本)



橋文夫、高村恵子、野菊寮、渡辺弘子、マツサージ金子、井村弘子、中里京子、シヤマム池谷、御殿場教会、琴音会、近岡友子、勝又町子、白倉たえ子、加藤正代、土屋明子、車椅子ダンスの会、富士社会教育センター、しろうえい幼稚園、不二聖心中学生、御殿場中学校生、御殿場特別支援学校生、御殿場東小学校生、さわやか部会、高根婦人会OB会、高根中学生

あとがき

そこここでクリスマス色の音声が聞かれます。一八七七年十二月六日トーマス・エジソンが蓄音機を発明し、人類は「音」を保存し使う術を知りました。今、私の掌には二〇〇〇曲を保持した子孫iPodが居ます。誰もが「音」と共に生き、巷には音が溢れます。現代、最も貴重な物は「静寂」と言えます。

財団法人日本オーディオ協会は十二月六日「音の日に、音を聴いた文化生活の貢献者」音の匠を顕彰します。今年の対象は声優中村啓子さん。常に聖書の一節「何事でも、自分に於いて貴い事、他の人にもその様にしない事」を心掛け、N.T.Tの時報、番号案内、ATM等、日本国民が必ず聞く声に想いを映し出します。

御殿場十字の園中央エレベーターの声も、中村啓子さんである事を御案内申し上げます。今年を締めくくります。(やまもと)